平成２６年度　胎内市外国語活動・英語部　活動報告

部長　中山　朋子

１　研究主題

主体的に活動に取り組む児童の育成～小中連携を通して～

２　研究の概要

小学校、中学校で、外国語活動や英語の授業に使える教材・教具を紹介しあったり授業研究を通して学びあったりする機会を設けて、小中の連携を深め、自校の実践に生かせるようにする。

３　研究の実際

（１）授業で使える教材・教具の紹介　　　　　　会場　胎内小学校　参加者 10 名

- 日頃、授業で使っている教材や教具、ワークシートなどを紹介し合った。どの単元でどのようなアクティビティに使用するかなど詳しく話を聞くことができた。
- 様々な教材が紹介され、参考になるもの、小学校や中学校でアレンジして使えるものが見つかる良い機会となった。
- 学校で購入した教材であるが、授業でなかなか活用しにくい教材の生かし方を話し合った。今後の活用のヒントを得ることができた。

（２）中学校授業研究会　　　　　　　　　　　　会場　黒川中学校　参加者　14 名

①授業者　猪俣　理恵子　教諭（黒川中学校）

②指導者　大竹　肇　様（新発田市教育委員会　教育センター指導主事）

③単元名　TOTAL ENGLISH 1 「Action! 何時ですか？」

④協議会の記録

- 班員が協力しなければできない課題であり、興味をひくキャラクター、設定であったので、生徒は意欲的に学習に取り組んでいた。
- 時差を扱った学習だったので、小学校でも文化に親しむ事項として扱える。
- 英語での説明を生徒がしっかりと理解していたのか、確認する必要がある。
- グループでの学び合いと英語量のバランスが難しい。モデルをしっかりと示して生徒に自信を持たせてから任せるようにすることが大切である。練習量を増やし、使う英語の量を増やすと良い。

４　成果と課題

（１）成果

今年度は授業研究を１回、実践発表を１回行った。小中間で共通して使える教材や少しアレンジすれば各校で応用できるものなど情報交換できたことは良かった。

授業研究では、中学校１年生の授業を通して、小学校の外国語活動で学んできたことの発展性やつながりを考える良いきっかけとなった。また、指導者をお迎えし、外国語活動と英語授業のつながりや授業の中で大切にしていきたいこと、今後の英語教育の展望などをご指導いただき、研修を深めることができた。

（２）課題

「各校の教材紹介」では、小学校教諭の参加が少なく、小学校側の情報発信が足りなかった。また、授業研究においては小中の教員による合同指導案検討の機会を設けるなどして、連携をさらに深めていきたい。